



平成24年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年7月27日

上場会社名 アートsparkホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3663 URL <http://www.artspark.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 村上 匡人  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役業務管理部長 (氏名) 星 和彦 (TEL) 03-3710-2985  
 四半期報告書提出予定日 平成24年8月10日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年12月期第2四半期の連結業績(平成24年4月2日~平成24年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年12月期第2四半期	734	-	△261	-	△270	-	△376	-
23年12月期第2四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 包括利益 24年12月期第2四半期 △362百万円( -%) 23年12月期第2四半期 -百万円( -%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年12月期第2四半期	△56.70	-
23年12月期第2四半期	-	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年12月期第2四半期	5,102	3,221	62.6
23年12月期	-	-	-

(参考) 自己資本 24年12月期第2四半期 3,196百万円 23年12月期 -百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年12月期	-	-	-	-	-
24年12月期	-	0.00	-	-	-
24年12月期(予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年12月期の連結業績予想(平成24年4月2日~平成24年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,810	-	△687	-	△717	-	△780	-	△117.54

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	24年12月期2Q	6,635,570株	23年12月期	－株
② 期末自己株式数	24年12月期2Q	80株	23年12月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	24年12月期2Q	6,635,518株	23年12月期2Q	－株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 当社は、平成24年4月2日に株式会社セルシスと株式会社エイチアイが経営統合し、両社を完全子会社とする共同持株会社として設立されました。この結果、当連結会計年度が第1期となるため、前期実績及び前年四半期実績はありません。
- 当四半期連結会計期間は、当社設立後最初の四半期連結会計期間ですが、「第2四半期連結会計期間」として記載しております。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。
- 当社は、以下のとおり説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料等については、開催後速やかに当社ホームページで掲載する予定です。
- 平成24年8月3日（金）・・・・・・アナリスト・機関投資家向け決算説明会

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(その他)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報等	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(7) 重要な後発事象	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社は平成24年4月2日に、株式会社セルシスと株式会社エイチアイの共同株式移転の方法による共同持株会社として設立されました。よって、当四半期決算短信は設立後最初に提出するものであるため、前年同四半期との対比は行っておりません。

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、東日本大震災からの復興需要等を背景に穏やかに回復傾向にあるものの、欧州の債務問題や円高の長期化など、依然として先行きが不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く事業環境を見渡しますと、パーソナルコンピューター以外でのポータブルなネット接続機器の多様化や、デジタルカメラをはじめとする家電、車載機器、電子看板、店舗での操作端末など実用機器でのグラフィクス表示機能の技術が著しく進歩しており、一般への普及も進んでおります。今後、デジタルグラフィクスの制作から利用に関する技術とサービスや、利便性の高いデジタル機器のユーザーインターフェースの提供は、より一層社会的に重要な基幹活動の一つになっていくものと予想されます。

このような状況の下、当社グループは「デジタル“ものづくり”」の応援と支援を経営理念に掲げ、デジタルによるコンテンツの制作と利用が一般に普及する社会において、引き続き重要なポジションを担い続けられるよう、当社グループの強みであるグラフィクス関連技術とサービス開発の相乗効果を最大限に活かした事業活動を推進しております。

携帯端末市場の中心がスマートフォンへと急速に移行していく中で、当社グループは事業モデルが転換期にさしかかってきており、かかる変化を新たな成長機会として捉え、中長期的に企業価値を継続的に向上させる目的で、平成24年12月期を翌期以降の収益改善に直結するための既存事業と資産の再評価の年と位置付けております。今後の当社グループの成長とグループ経営基盤の強化に不可欠なものと考え、一時的に収益を圧迫する事となりますが、これらの施策を優先的に実施してまいります。

その結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は734,307千円、営業損益は261,636千円の営業損失となりました。

経常損益につきましては、持分法投資損失及び上場関連費用により270,846千円の経常損失、純損益につきましては、負ののれんの発生等により特別利益409,215千円を計上しましたが、ソフトウェア資産の見直しによる減損、投資有価証券評価損等の特別損失437,434千円、税効果会計に係る繰延税金資産の取崩等77,203千円により376,269千円の四半期純損失となりました。

事業別セグメントにつきましては、以下のとおりであります。

#### <電子書籍サポート事業>

電子書籍サポート事業の中心である携帯電話市場においては、平成24年6月末で国内携帯電話加入契約数が1億2,577万台（「EMOBILE」を除く）となっております。（社団法人電気通信事業者協会発表「携帯電話・PHS契約数」より）

また、スマートフォンの状況は、2011年度の出荷台数が前年比2.8倍の2,417万台（2010年度は855万台）に拡大し、総出荷台数に対するスマートフォン出荷台数比率が56.6%（2010年度は22.7%）となり、年度別では初めて過半数を占める結果となりました。（株式会社MM総研発表より）

このような経営環境の中、スマートフォン向けコンテンツ市場においては、平成23年11月よりNTTドコモによるポータルサイト「dメニュー」が開始される等、スマートフォンでのビジネス環境は整いつつあり、スマートフォン端末向け総合電子書籍ビューア「BS Reader」を利用するサービスも平成24年

6月で100サービスとなっております。また、HTML5技術を利用した「BS Reader for Browser」の提供を開始し、Webブラウザ上でリッチな演出のコミック閲覧が可能になりました。既存のサービスモデルとは異なり、HTML5対応のWebブラウザを使うことにより、ビューアアプリをダウンロードすることなく電子書籍の書店サイトからシームレスなコミック閲覧が可能となり、市場に流通している1,000万ファイルを超越するBSフォーマットのコンテンツ配信を実現したことで、スムーズにサービスを開始することができるようになりました。

以上の結果、総合電子書籍ビューア「BS Reader」を軸として推進する電子書籍サポート事業につきましては、売上高は346,530千円、営業利益は24,490千円となりました。

#### <クリエイターサポート事業>

クリエイターをトータルに支援するクリエイターサポート事業につきましては、イラスト制作ソフトウェア「IllustStudio」及びマンガ制作ソフトウェア「ComicStudio」等に加え、5月末に初心者からプロフェッショナルに至る広いグラフィクス・クリエイターのニーズを満たす機能を備えた「CLIP STUDIO PAINT PRO」をリリースいたしました。また、インターネットを通じてイラスト、マンガ、アニメ、小説を制作するクリエイターの創作活動をトータルに応援するサイト「CLIP」では、平成24年6月末時点において登録者数は21万人となっております。

以上の結果、売上高は124,549千円となりましたが、サービス拡充に向け積極的にシステム開発を行ったことにより営業損失は152,229千円となりました。

#### <ミドルウェア事業>

デジタル家電機器向けにUI（ユーザーインターフェース）ソリューション提供を行うミドルウェア事業においては、車載機、業務用カラオケ機器等を中心に、デザイン領域を含めた総合的なUIソリューションに対する需要が旺盛であり、ハードウェアメーカーに対する受託開発収入が順調に推移しております。また、これらに係るライセンス収入も堅調であります。

以上の結果、ミドルウェア事業の売上高は、194,090千円となりましたが、販売管理費を吸収できず営業損失は89,054千円となりました。

#### <アプリケーション事業>

ミドルウェア事業で培ったノウハウをサービス領域に提供するアプリケーション事業においては、通信キャリアやサービス事業者、ゲーム開発会社等からのサービス・コンテンツ開発を受託すると共に、サービスの運用受託や、サービス事業者との共同運営等を継続的に行い、収益性の向上に努めております。当期は、ゲームコンテンツ分野においても運用受託の割合を増やす施策をとっております。

以上の結果、アプリケーション事業の売上高は、69,136千円となり、販売管理費を吸収できなかった事に加え、ゲームコンテンツの受託開発案件において受注損失引当金24,049千円を計上したことから、営業損失は84,775千円となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

### ①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、5,102,999千円となりました。うち、流動資産は2,992,165千円であり、主な内容は現金及び預金1,985,287千円であります。また、固定資産は

2,099,266千円であり、主な内容はソフトウェア1,301,332千円であります。

当第2四半期連結会計期間末における総負債は、1,881,696千円となりました。うち、流動負債は1,161,254千円であり、固定負債は720,441千円であります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、3,221,303千円となりました。なお、自己資本比率は、62.6%となりました。

## ②キャッシュ・フローの状況

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、223,539千円となりました。これは主として、税金等調整前四半期純損失299,065千円の計上や負ののれん発生益408,113千円の計上等があったものの、減価償却費の計上153,115千円、減損損失の計上394,407千円、売上債権の減少額408,265千円等の資金の増加要因があったことによるものであります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、259,774千円となりました。これは主として、ソフトウェア等の無形固定資産248,357千円の取得、有形固定資産6,556千円の取得等によるものであります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、110,500千円となりました。これは主として、長期借入金の返済による支出70,476千円、短期借入金の返済による支出40,000千円等があったことによるものであります。この結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は、1,631,958千円となりました。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年12月期の連結業績予想につきましては、平成24年5月11日に発表いたしました業績予想から変更はありません。

## 2. サマリー情報(その他)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### 税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法としております。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### (有形固定資産の減価償却方法の変更)

当社グループは法人税法の改正に伴い、当第2四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による当第2四半期連結累計期間の連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)	
<b>資産の部</b>	
流動資産	
現金及び預金	1,985,287
売掛金	598,259
製品	20,470
仕掛品	107,351
原材料及び貯蔵品	160,217
その他	135,501
貸倒引当金	△14,922
流動資産合計	2,992,165
固定資産	
有形固定資産	
建物	113,454
減価償却累計額	△67,592
建物(純額)	45,861
工具、器具及び備品	274,087
減価償却累計額	△238,385
工具、器具及び備品(純額)	35,702
建設仮勘定	1,188
有形固定資産合計	82,752
無形固定資産	
ソフトウェア	1,301,332
ソフトウェア仮勘定	73,712
その他	30,227
無形固定資産合計	1,405,272
投資その他の資産	
投資有価証券	409,002
敷金及び保証金	202,239
投資その他の資産合計	611,241
固定資産合計	2,099,266
繰延資産	
創立費	11,566
繰延資産合計	11,566
資産合計	5,102,999

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間  
(平成24年6月30日)

負債の部	
流動負債	
買掛金	254,983
短期借入金	310,000
1年内返済予定の長期借入金	248,572
未払法人税等	11,607
返品調整引当金	7,259
受注損失引当金	24,049
その他	304,783
流動負債合計	1,161,254
固定負債	
長期借入金	598,681
退職給付引当金	74,541
繰延税金負債	47,219
固定負債合計	720,441
負債合計	1,881,696
純資産の部	
株主資本	
資本金	1,000,000
資本剰余金	1,867,600
利益剰余金	316,570
自己株式	△24
株主資本合計	3,184,146
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	11,949
その他の包括利益累計額合計	11,949
新株予約権	25,207
純資産合計	3,221,303
負債純資産合計	5,102,999



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月2日 至平成24年6月30日)
売上高	734,307
売上原価	640,568
売上総利益	93,738
返品調整引当金戻入額	7,086
返品調整引当金繰入額	7,259
差引売上総利益	93,566
販売費及び一般管理費	355,202
営業損失(△)	△261,636
営業外収益	
受取利息	351
受取配当金	5,000
その他	604
営業外収益合計	5,955
営業外費用	
支払利息	3,111
持分法による投資損失	7,981
その他	4,072
営業外費用合計	15,165
経常損失(△)	△270,846
特別利益	
負ののれん発生益	408,113
その他	1,101
特別利益合計	409,215
特別損失	
減損損失	394,407
投資有価証券評価損	43,026
特別損失合計	437,434
税金等調整前四半期純損失(△)	△299,065
法人税等	77,203
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△376,269
四半期純損失(△)	△376,269

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

		当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月2日 至 平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)		△376,269
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金		13,459
その他の包括利益合計		13,459
四半期包括利益		△362,809
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益		△362,809
少数株主に係る四半期包括利益		—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間  
(自平成24年4月2日  
至平成24年6月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失(△)	△299,065
減価償却費	153,115
株式報酬費用	1,496
新株予約権戻入益	△101
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△12,990
返品調整引当金の増減額(△は減少)	172
退職給付引当金の増減額(△は減少)	4,746
受注損失引当金の増減額(△は減少)	24,049
受取利息及び受取配当金	△5,351
支払利息	3,111
為替差損益(△は益)	361
持分法による投資損益(△は益)	7,981
負ののれん発生益	△408,113
減損損失	394,407
投資有価証券評価損益(△は益)	43,026
売上債権の増減額(△は増加)	408,265
たな卸資産の増減額(△は増加)	△169,754
仕入債務の増減額(△は減少)	△8,446
その他	89,804
小計	226,713
利息及び配当金の受取額	5,351
利息の支払額	△3,177
法人税等の支払額	△5,347
営業活動によるキャッシュ・フロー	223,539
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△900
有形固定資産の取得による支出	△6,556
無形固定資産の取得による支出	△248,357
投資有価証券の取得による支出	△3,960
投資活動によるキャッシュ・フロー	△259,774
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の返済による支出	△40,000
長期借入金の返済による支出	△70,476
自己株式の取得による支出	△24
財務活動によるキャッシュ・フロー	△110,500
現金及び現金同等物に係る換算差額	△361
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△147,096
現金及び現金同等物の期首残高	698,909
株式移転による現金及び現金同等物の増加額	1,080,144
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,631,958

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月2日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)	合計
	電子書籍サ ポート事業	クリエイタ ーサポート 事業	ミドルウェ ア事業	アプリケー ション事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	346,530	124,549	194,090	69,136	734,307	—	734,307
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	1,708	5,606	5,285	12,600	△12,600	—
計	346,530	126,257	199,696	74,422	746,907	△12,600	734,307
セグメント利益	24,490	△152,229	△89,054	△84,775	△301,569	39,932	△261,636

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない全社収益、全社費用の純額であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「クリエイターサポート事業」セグメントにおいて、当初の予想よりも収益性が低下している資産グループについて、その帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては、394,407千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

当社は、平成24年4月2日に、株式会社セルシスと株式会社エイチアイの共同株式移転の方法による持株会社として設立されましたが、株式会社セルシスを取得企業とする過程において、負ののれん408,113千円が発生しました。当該負ののれんは、特定の報告セグメントに係るものではないため、報告セグメントごとの重要な負ののれん発生益はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成24年4月2日に株式会社セルシスと株式会社エイチアイの共同株式移転の方法による持株会社として設立されました。この結果、当第2四半期連結会計期間末において、資本金は1,000,000千円、資本剰余金は1,867,600千円、利益剰余金は316,570千円、自己株式は△24千円となっております。なお、発行済株式総数は、6,635,570株です。

(7) 重要な後発事象

該当事項はありません。